

# B 5

●多角的な連携で時代の変化に対応した新たな事業展開

## 茨城県コンクリート製品協同組合

住 所	〒311-4142 茨城県水戸市東赤塚 2154-3		
U R L	http://www.ibacon.jp/		
設 立	昭和43年2月	主 な 業 種	製造業
組 合 員 数	21人	出 資 金	67,750千円

### ■背景・目的

当組合は、設立以来「適正価格の実現」「信頼される品質の確保」「新たな共同販売製品の開発」を基本方針に掲げ、コンクリート製品の共同販売等を通じて組合員企業の経営安定に努めてきた。しかし公共事業の減少や製品の多様化の進行等によりコンクリート製品の需要が減少するなか、多角的な連携を図り新製品の開発や業界の認知度向上・イメージアップ等に努め、需要の維持・拡大に向けた新たな事業を展開している。

### ■取組みの手法と内容

共同販売する新製品の開発にあたり、茨城大学との共同研究で耐久性の実証実験を行い、新たなオリジナル製品「ガードレール用基礎ブロックIGK」を実用化し特許を取得し、新製品開発後も茨城大学と共同で論文を発表(報告)するなど継続した取組みを行い、開発製品の優位性を訴える営業により販路の開拓と拡大に努めている。

また、業界での人手不足が深刻化するなか、若い世代に向けて業界の魅力を発信する機会を模索していたところ、コンクリート製品検定試験を通じて関わりのあった専門学校文化デザイナー学院建築設計デザイン学科の学生とのコンクリート製プランター製作に発展した。

これは産業廃棄物となる使い残したコンクリートを材料に用いて学生のデザインによりプランターを製作するもので、プレゼンテーション審査会の結果、一作品を選定。組合員の指導の下、型枠作製講習会、試作品作製講習会及び強度試験講習会を経て製作され、完成品「zancon-Planter」は学院内において1個1,000円で販売し、学生の意欲向上に繋げるとともに、他学科の学生にも業界の魅力を伝えることができた。

これらの取組みは地方紙や業界紙で紹介されたほか、いばらきデザインセレクション2021の製品・工芸部門でそれぞれ「選定」「奨励」に選ばれるなど、県民等に向けた業界の周知にも積極的に取り組んでいる。

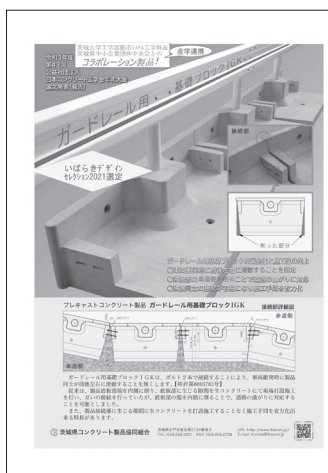
### ■成果とその要因

組合内の品質・技術委員会で、定期的に新製品の開発や人材育成について継続して協議していることが様々な取り組みに発展。また時代の変化を捉え、組合の未来を見据えながら外部機関との多角的連携により新事業に取り組んできたことが、付加価値の高い製品開発と業界PRや組合員の意識向上に繋がった。

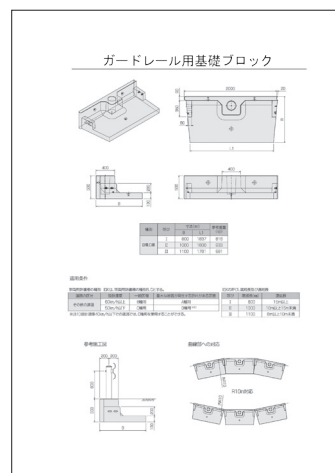
特徴ある活動



試作品作製講習会



ガードレール用基礎ブロックIGK



### Point!

外部と連携した多角的な視点による取り組みが、業界PRのみならず組合事業を継続する原動力となっている。